

伝える！ つなげる！ ゴースマイル！



小宮の丘

教員日誌

学校 HP : <http://hachioji-school.ed.jp/komye/>

〇かしこい子 〇たくましい子 〇ゆたかな子 〇みんなと仲よく生きぬく子

令和7年度学校だより
八王子市立小宮小学校
発行責任者
校長 山北 雅史
令和8年2月1日発行
第11号

大いなるもの

校長 山北 雅史

6年生の道德の授業を見ていた時のことです。ちょっと難しい質問ですが、と前置きしながら「人間の力を超えた大いなるものに感動した経験はありますか」と先生が問いかけました。さまざまな意見で答える子どもたち。「日の出の様子」「高尾山から見た富士山の景色」「きれいな夕焼け空」「山で感じた空気のおいしさ」「日光の自然」・・・なるほどねと思いながら、自分だったら何かと考えました。子どもたちのこれまで12年間の人生に比べたら、その何倍も生きているはずですが、これがすぐには思いつきません。あわただしく過ぎていく日常生活の中で、それこそあまり気にしていなかった事柄です。温泉に出かけた際に御殿場の乙女峠から見た雪をかぶった冬の富士山かな。数少ない海外旅行の中で見たハワイのキラウエア火山の流れる溶岩かな。でもやっぱり、学生時代に夏の乗鞍高原で見た頭上いっぱいに降り注ぐような満天の星空かな。などと考えていると、授業はまさに夜空の星の話となりました。

輝く星は地球からどのくらい離れているのかと言えば、有名な1等星シリウスで8.6光年、北極星では約430光年だとのこと。430年前は安土桃山時代、今年の大河ドラマ「豊臣兄弟！」の時代です。その時の北極星の光が今ようやく私たちのところに届いているのかと思うと不思議な気持ちになります。さらに遠い星の中には、300億光年以上のものまで観測されているというのです。寿命を迎えて、すでに消滅しているかもしれない星の光だけが旅をしているのかもしれない。途方もないスケールのお話です。まさに人間の力をはるかに超えた世界です。

先生が再び子どもたちに問いかけます。「こうした宇宙の中で『今』を生きる自分についてどう思いますか？」考えている子どもたちの姿を見ながら教室を後にした私も、階段を下りながら自分に同じことを問いかけます。100億年とも言われる星の寿命(太陽の場合)と100年足らずの人間の寿命と一概に比べることはできませんが、星に比べて一瞬の『今』を生きているからこそ、広い気持ちで少しでもおおらかに生きていければと改めて思います。狭い地球でわずかな領土の取り合いをしている人間の小ささがおかしくなります。ちなみに寿命が約2年のハムスターは、心拍数が人間の6倍もあり、たった4時間が人間の1日と同じといえます。人間よりもさらに短い一生を懸命に生きている同じ地球の小さな仲間だっているのです。恥ずかしくない生き方をしたいものだと、職員室のケージにいる小宮小のアイドル、ハムスターの「おもちくん」を眺めながら思います。

